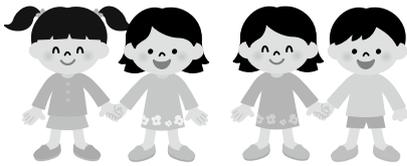


11月1日は

たかハマ子ども 市民憲章 制定記念日です

市では、市内に暮らすすべての子どもが主体的に社会に参画し、子どもの自己実現が図れるよう支援するとともに、子どもの権利擁護の推進を図るため、平成15年11月1日に「たかハマ子ども市民憲章」を制定しました。

皆さんもこの機会に子どもとおとなの意識の違いについて、話し合ってみませんか？



問合せ先 いきいき 子育てグループ ☎52-1111(内線316)

たかハマ子ども市民憲章

平成15年11月1日制定

わたしたちは、国連・児童（子ども）の権利条約の理念をふまえ、人間性豊かで誇りを持つ高浜を創っていきます。そのためには、子どもとおとなが市民として、互いの意思と力を尊重し、理解を深め合うことが大切です。そこでわたしたちは、現在及び未来の高浜のまちを支え合っていくために、ここに「たかハマ子ども市民憲章」を定めます。

【子どもから】

1. みんな幸せになる権利がある。だから、自分の心を閉ざさないで。短所も、別の見方をしたら長所かもしれない。自分のことをもっと好きになって楽しもう！
2. わたしは世界でただひとり、だから大切。あなたも世界でただひとり、だからやっぱり大切。お互い大切なんだから、いやがることはしないようにしよう。
3. 学校の勉強だけが学ぶことじゃない。遊びからも友達からもたくさん学ぶことができる。だから遊びと友達を大切に。もちろん勉強も大切！
4. けんかほほどほどに。けんかもそんなに悪いことじゃない。けんかから学ぶことだってあるしね。
5. 怒りたくてもすぐにださない。趣味や夢をみつけて発散しよう！それでもイヤなことがあったら「ムカつく」の一言で終らせなくて、自分の感情をもう少し細かい言葉で表現してもいい。
6. ひとりで悩んだりしないで、だれかに助けを求めたっていい。別に恥ずかしいことじゃないからさ。
7. なんでも今、自分が「一番」とは限らない。でもそれに近づくようがんばって上をめざしていこう。自分らしい、自分なりのがんばりで、コツコツ コツコツ少しずつでいいよ。
8. 何事にも全力投球！でも気楽に行こう。チャンスはいつもそばにある。

【おとなから】

1. 自分を大切にし、希望をもって生きる姿勢を示していきたい。
2. どの子どももみんな一人ひとり違います。その違いをその人の豊かさとして受けとめます。
3. 子どもが自分と周りを変える力をつけるために学び、活動していくことを支援します。
4. 完全さを求めず、子どもが自分を出せるようにゆとりと寛容さをもって接します。
5. 子どもに愛情を持って接し、干渉しすぎたり、ひとりで背負い込まないで、地域の人びととともに子どもの自治を支え、楽しく子育てを進めます。
6. 子どもが安心して集い、交流し、ありのままの自分を出せるような居場所を子どもとともに創っていきます。
7. いじめや虐待など権利侵害を受けることなく、子どもが安心して生活できるように、いつでも相談でき、救済・回復できるようなくみを整えるよう努めます。
8. 子どもとともに、民族的、国民的、宗教的な偏見を持つことなく、相互の理解、寛容の精神のもとで、地球市民として日本と世界の平和を願い、この世界から戦争や争いがなくなるように努めていきたい。

中学生海外派遣団 ブルネイ・ダルサラーム国を訪問

異文化を理解し、国際的な視野を広げるとともに、高浜市や日本のよさを見つめ直すことを目的に実施している中学生海外派遣。今年は8月18日～25日に、高中生7人・南中生3人がブルネイ・ダルサラーム国を訪問しました。

ブルネイは、人口約40万人、東南アジアのボルネオ島北部に位置しているイスラム教国。高浜市から三州瓦を輸出した縁から、愛・地球博(平成17年)の際にフレンドシップ国となりました。市では平成20年度から、毎年、中学生をブルネイに派遣しており、今回で12回目となります。

生徒たちは三州瓦が使われている王宮、モスク、熱帯雨林や水上集落を見学したほか、学校での授業体験などをとおして、現地生徒との交流を深めました。また、セレモニーでは、「ソーラン節」を舞い、「崖の上のポニョ」「小さな世界」滝廉太郎の「花」を歌うなど、互いの文化を紹介しあいました。

初日には不安いっぱい緊張していた生徒たちですが、最終日には現地の生徒やホストファミリーとの別れに涙を流し、「また会いに行きたい。」と話しました。

9月26日には、「帰国報告会」でそれぞれの学びを発表しました。この貴重な経験は、かならず成長の糧となるでしょう。



高浜中学校 弘田 萌衣さん

私の研修テーマは教育でした。現地の中学校に実際に通って、授業の雰囲気から個人の意見を大切にしていることに気付きました。また、さまざまな方の協力で幼稚園にも行くことができました。そこには机に向かって勉強をする幼稚園児の姿があり、日本との違いに驚きました。私の夢は保育士です。今回の訪問で教育に対して視野を広げることができました。この気づきを将来の保育という形で還元していきたいです。

南中学校 浦田 日菜乃さん

私にとって「生き抜く力」が鍛えられた1週間でした。初めてづくしで不安になったときもありましたが、現地の方々の優しさ、先生方の励まし、そして派遣団の笑顔や頑張っている姿を見て「この貴重な時間を大切にしよう」と思うことができました。そして、日本とブルネイの生活の違いを多く学ぶことができました。このような貴重な体験をさせていただき、本当にありがとうございました。一人でも多くの人に私の体験を伝えたいです。

問合せ先 いきいき 教育センターグループ ☎52-1111(内線345)